

# オーガスタンの まなざし



主教 小林 尚明

## 『平和について 確認したい事』

昨年11月、大聖堂で兵庫  
県基督教連合会主催の研修  
会が開かれました。講師は、  
遠藤雅己教授(神戸聖ペテ  
ロ教会牧師)。

先生は、お話の中で、『平  
和が普通であり、戦争は非  
常事態である』との考えが  
あるが、「米国ブルックリン  
研究所によれば、紀元前1  
496年から紀元1861  
年までの3358年間に、  
戦争が世界のどこにもなか  
ったのは11年しかなかった。  
結論から言えば、戦争は人  
類史の中で普通の出来事だ  
あって、平和の方が異常事  
態である。

また、人類は近代化が進  
むほど理性的、善良になり、

戦争においても無駄な殺傷  
や残酷な戦術は減少すると  
考えられていたが、「世界戦  
争事典」によれば、18世紀  
の百年間の戦死者は七百万  
人。19世紀には千九百万人  
が死亡し、そして核兵器や  
毒ガスが使用された20世紀  
の戦死者は一億七百万人  
人(この半数以上が非戦闘  
員)とお話くださいました。

これが私たちの住んでい  
る世界の現実です。この世  
界にあつて、私たちが平和  
を考える時、イエス様は「剣  
をさやに納めなさい。剣を  
取る者は皆、剣で滅びる(マ  
タイ26章52節)」と教えられ  
ています。

また、「悪人に手向かつて  
はならない。だれかがあな  
たの右の頬を打つなら、左  
の頬をも向けなさい。(マタ  
イ5章39節)」「敵を愛し、  
自分を迫害する者のために  
祈りなさい。(マタイ5章44  
節)」と教えられています。  
平和を作り出すための覚  
悟が求められています。

(神戸教区主教)

## デイサイプルシップ③

### ーランベス・コールー

神学塾運営委員 司祭 ミカエル 杉野達也

2022年に行われたラン  
ベス会議のテーマの中にも  
「弟子であること(デイサイ  
プルシップ)」が取り上げら  
れ、話し合いが行われました。  
今回のランベス会議で、全聖

弟子であること、生活のあら  
ゆる面において人々を愛し、  
仕えることを学び、その後も  
繰り返し学び続けるように呼  
び掛けられています。

また、2026年までの期  
間を「自主的弟子性及び弟子  
養成の期間」として定め、こ  
の期間に「宣教の5指標」を  
もとに学び、行動していくよ  
うに要求されていますので、  
記します。

①伝える…礼拝と日常生活を  
通して、神の国の福音を宣  
言する。  
②教える…私たちの地域教会  
を通して、新しい信者を教  
え、洗礼を授け、養育する。  
③世話をする…可能な限りの  
方法での愛の奉仕によつ  
て、人間の必要に応える。

④変革する…社会の不正な  
構造を変革するために働  
き、あらゆる種類の暴力に  
挑戦し、平和と和解を追い  
求める。

⑤大切に…創造物の一体  
性を守り、地球の生命を保  
ち、再生させるために努力  
すること。

ランベス・コールの「弟子  
であること」をまとめると、  
「弟子」とは「学ぶ者」であ  
ることが冒頭に書かれていま  
す。そして、ペトロの手紙1  
第4章7節〜11節の言葉を引  
用し、私たち一人ひとりが神  
様から素晴らしい賜物を受け  
取っており、生涯にわたって

最後に、教会という場が集  
まる全ての人にとって、弟子  
としての学ぶ場所となるよう  
に変えられることが呼びかけ  
られています。聖書研究や、  
キリスト教講座、み言葉の礼  
拝の奨励や、み言葉の礼拝後  
に聖書の分かち合いを行って  
いる教会もあります。これか  
ら積極的に学びの場が設け  
られ、一人ひとりが積極的に  
参加し、学び続けていくこと  
を大切にしましょう。神学塾  
運営委員会ではこれからも通  
信講座や研修会など学びの場  
を提供していく予定です。皆  
様のご参加、お待ちしております。